

先週は、ここ数年のカナダ経済全般の「過激」な動きをご紹介したが、実際、目まぐるしい金利の変動や戦争を背景とする物価上昇など、通常では想定しえない時期となったと要約したい。カナダ国民は、カナダ政府と中央銀行から送られたメッセージを読み

ナビゲーター

解く間もなく、市場の変化に直面することになった。

私は経営コンサルタント業務を通して、ビジネスリーダーにたえず積極的であることを提唱し、奨励してきた。というのは、攻撃的な競合他社が今にも動き出そうとしているかもしれないからだ。も

日本への期待 世界各地から

其
93

成長計画へのもうひとつのシグナル

しあなたが素早く動くなら、あなたは「市場創造者」(マーケット・メーカー)になれるが、もし他社が先行してしまつと、あなたは「市場追従者」(マーケット・テイカー)になってしまつだけである。会社経営者は事業上の重要な決断を直感に頼っている。悪いことではないものの、直感を裏付けるデータが不可欠なのではないか。役立つ財務モデルを作成し、さまざまな投資アイデアと比較し、事業拡大の可能性を検討したり、新たな成長志向が運転資本、

カナダから(中)

収益性、評価に与える影響を測定したりすることが求められる。

このような羅針盤なしに意思決定するのは、ルートや滞在先を決めずに長旅に出るようなものではないか。ビジネスにおける落とし穴や機会をモデル化しなければ、不意打ちを食らったり、準備不足のまま困難な状況に遭遇したりする可能性があり、その結果はリスクが高まるだけである。

昨今のように低成長が長く続くと、反応が鈍化し、弱体

化している企業が多いため、企業の合併や買収の機会が増えるかもしれない。資本を確保し、確固たるリーダーシップを持つ強力な企業は、この手を利用できるだろう。製造業各社は投資を強化して、成長できる時期が到来したと安心できるだろう。

先に進む前に、もうひとつの経済データを加えておきたい。それは米国のFRB(連邦準備制度理事会)金利が5・3%であることで、カナダ企業にとつてはきわめて注目すべき重要なものだ。カナダ

にとつて最大の貿易相手国は米国で、米国は地理的にも経済的にも密接な関係にある。カナダは国独自の金融政策を取るができる一方で、米

国の金利差は為替相場に影響を与える。2023年の米経済成長率は2・5%で、カナダの2倍であった。米国のインフレ率は3・4%であるため、FRBはおそらくFF金利を現在の水準にしばらく据え置くと見られる。

このためカナダの金利が低いまま、米国の金利との差が拡大すると、カナダドルは打

撃を受けると予想される。現在1米ドルは1・37カナダドルで取引されている。FF金利が低下し始め、その差が縮小するまで、若干のカナダドル安が予想される。カナダドル安はカナダの製造業者や対米輸出業者にとっては好材料だが、カナダ人が米国から商品を購入し、サービスを受けるには割高になる。

この点は、カナダのビジネスリーダーが成長計画を立てるためのもうひとつのシグナルと考えられるのではないだろうか。

【グレン・ヨネミツ(カナダ・オンタリオ在住)、リム中産連】

(月曜日に掲載)